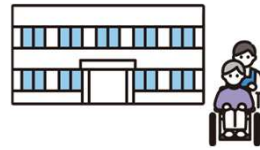


HIV感染症の基礎知識・ 介護マニュアルの紹介について



令和8年3月
香川県健康福祉部感染症対策課

1

1 はじめに

1.HIV感染症・エイズ患者における現状

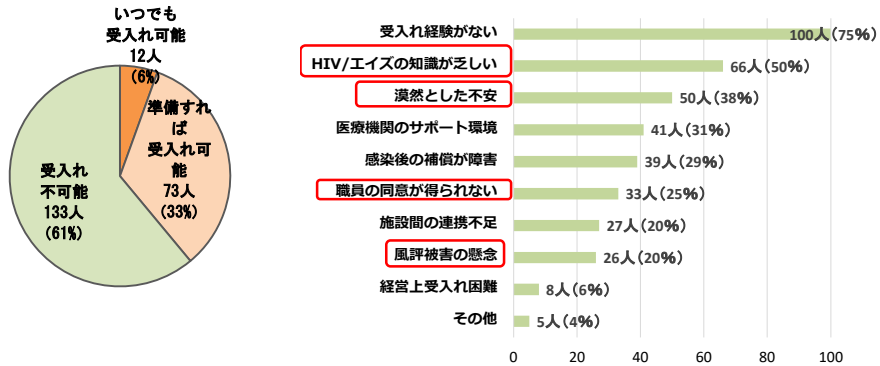
- ・ HIV感染症は、抗HIV療法の進歩による予後の改善に伴い、コントロール可能な病気となり、**長期存命が可能**となっている。
- ・ 一方で、長期にわたり治療しながら生活する患者の**高齢化**が進んでおり、今後、在宅生活が困難となる患者の数の増加が想定され、**地域における長期療養体制の整備が求められている。**

2.後天性免疫不全症候群に関する特定感染症予防指針

- ・ 令和7年11月に「後天性免疫不全症候群に関する特定感染症予防指針」の全部が改正。
- ・ 改正のポイントは、「人権の尊重」を第一に規定し、これを担保する重要な基盤として、**国民に広く「最新の科学的知見に基づく正しい知識」に基づいた理解が重要であるとされた。**
- ・ さらに、「HIVに感染しているという理由だけで**医療従事者や介護従事者等が診療、サービスの提供等を拒否することや、消極的になること等はあってはならない**」と明記された。

2

3.高齢者施設等におけるHIV感染者等の受入れに関するアンケート調査



【当課としては】
職員へのHIVに関する知識の普及啓発に取り組んでいきたい。
“今すぐに”というわけではなく、“今後を見据えて”できることから。

2 HIV感染症の基礎知識

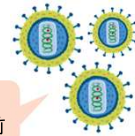
HIVとは？

ヒト免疫不全ウイルス (Human Immunodeficiency Virus: HIV)

1983年にAIDS患者から見つかったウイルスで、
人の免疫を守る役割を持つCD4陽性リンパ球に感染します。

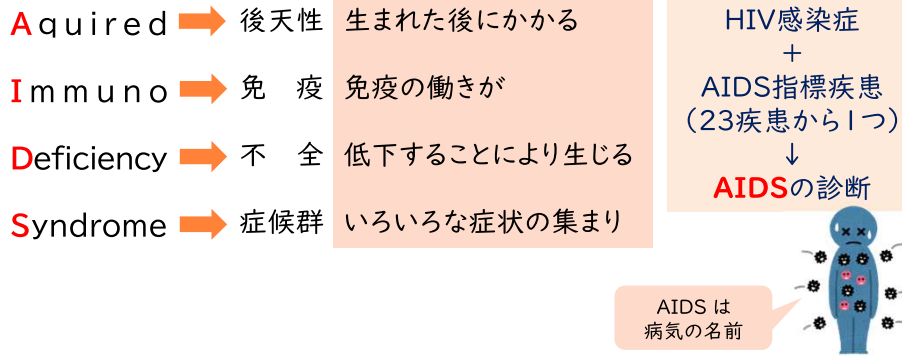
この細胞を徐々に壊すことで免疫力が低下し、
最終的に後天性免疫不全症候群(AIDS:エイズ)を発症します。

日本では5類感染症(全数把握)となっています。



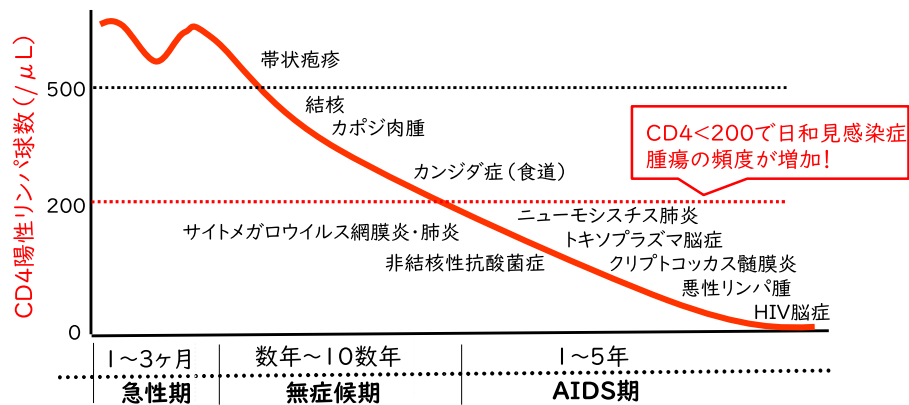
HIVは
ウイルスの名前

AIDS(エイズ)とは？



5

CD4陽性リンパ球と日和見疾患



<https://www.niid.go.jp/niid/ja/kansennohanashi/400-aids-intro.html>より引用改変

6

HIV/AIDSのことを正しく知ることから始めましょう



HIVの感染対策ができません

治療中の人に特別な感染対策は不要です。
HIVは感染力が非常に弱いので、日常生活や介護の場面で感染することはありません。



HIV感染症がある人は受け入れません

HIV感染を理由とした受け入れ拒否は、法律や指針に違反する場合があります。

- ・ 応召義務（医師法・歯科医師法）
- ・ 不当な差別的取扱い及び合理的配慮（障害者差別解消法）
- ・ 後天性免疫不全症候群に関する特定感染症予防指針（令和7年改正）

7

アルコール消毒でHIVは感染力が無くなります



8

感染予防対策

HIVの感染力は非常に弱い

スタンダードプリコーションで対応できます
(標準予防策)



全ての患者の汗を除く、血液、体液、分泌物、排泄物、
粘膜、傷のある皮膚は感染性があるものとして扱うこと。

9

療養環境

- トイレ、浴室、リネン、食器など

制限する必要はない

血液・体液で汚染された場合は次亜塩素酸ナトリウムで消毒



- 器具、器材、看護用品

他患者と同じ対応

血液・体液で汚染の恐れがあるものは個人専用、または次亜塩素酸ナトリウムで消毒
汚染がひどい場合はディスポーザブルの活用

- ごみ処理

血液などの汚染があるものは、他者が触ることがないように(袋に入れる等)して、
それぞれの施設の取り決め方法で捨ててください



10

HIV感染症は、こんなことではうつりません

- トイレ、洗濯機、お風呂、シャワー、プール、箸の共用、缶ジュースの回し飲み、カラオケのマイク、理髪店、美容院、バスや電車のつり革、お金
- 咳やくしゃみ、汗や涙、唾液、排泄物、蚊やダニなど



※血液のつきやすい日用品の共用は避ける(例:歯ブラシ、かみそり等)

HIV感染者への特別な対応は不要です！

11

治療中のHIV患者の
看護・介護などで
医療従事者に感染する可能性は
極めて低い(≒0%)



Undetectable = Untransmittable
(血中ウイルス量が検出限界値未満*なら感染しない)

*検出限界値未満:200コピー/mL未満

12

皆さんにお願いしたいこと

医療機関からご相談するのは、治療開始しウイルスコントロールができており、「地域の医療機関にかかる必要がある」患者さんです。

- 正しい知識と患者理解
- スタンダードプリコーション(標準予防策)
- **曝露**時の対応を事前に話し合っておくこと
- 相談窓口があることを知っておくこと



13

ご相談があればHIVケアチームまでご連絡を

陽性告知、患者対応、療養施設移行など

<HIVケアチーム 相談窓口>
香川大学医学部附属病院
感染制御部 HIV・AIDS対策室
TEL 087-898-5111(代)

病院代表番号より「HIV・AIDS対策室」担当者をお呼び出し下さい。
ご相談内容をお伺いし、後日担当者よりご連絡させていただきます。

14

3 パンフレット・研修会の周知

HIV感染症の介護マニュアル (香川大学医学部附属病院作成)



三つ折りパンフレット
(配布しやすいサイズ)



基礎知識/感染対策

ご相談があればHIVケアチームまでご連絡を

陽性告知、患者対応、療養施設移行など

<HIVケアチーム 相談窓口>
香川大学医学部附属病院
感染制御部 HIV・AIDS対策室
TEL 087-898-5111(代)

施設概要等よりHIV/AIDS対策室、担当者をお呼び出し下さい。
ご相談内容をお伺いし、後日担当者よりご連絡させていただきます。

<ポイント>
困ったときの相談窓口の明記

香川県開催

令和8年度 中国・四国ブロック 高齢者施設のためのHIV感染症対策研修会

- ①日 時 令和8年9月4日(金) 14時00分～15時30分
- ②場 所 香川県庁本館12階大会議室 またはオンライン (ハイブリット開催)
- ③対象者 高齢者施設、訪問看護・介護事業所、その他療養支援に関係する福祉・医療職等
- ④内 容
 - ・ HIVの基礎的な講義 (広島大学 藤井医師)
 - ・ 高齢者施設等におけるHIV感染者等の受入れに関するアンケート調査の結果報告 (香川県感染症対策課)
 - ・ HIV陽性者の福祉施設での受入れ、施設における感染症対策 (香川大学医学部附属病院 内田医師)
 - ・ 当事者の話 (HIV薬害訴訟原告団 橋本氏)

